



所在地 〒177-0053
練馬区関町南3丁目11番2号

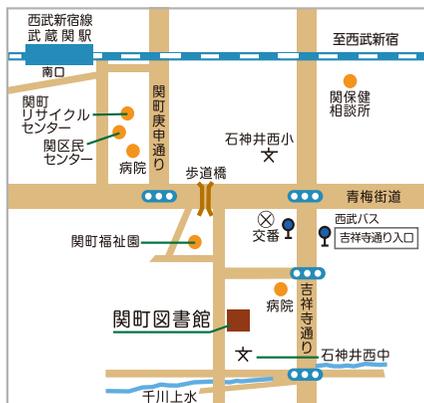
電話 03-3929-5391

開館時間 平日 午前9時～午後8時
土・日・祝休日 午前9時～午後7時

休館日 ・第1月曜を除く月曜日
(祝休日があたるときは開館し、
直後の祝休日でない日が休館日になります。)

・特別館内整理期間
・年末年始(12月29日～1月4日)

交通案内 ・西武新宿線 武蔵関駅南口から徒歩約12分
・保谷駅、大泉学園駅、上石神井駅から
「吉祥寺駅」行で「吉祥寺通り入口」下車徒歩約5分



関町図書館カレンダー

2026.2						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

2026.3						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

★ 関町図書館イベントのご案内 ★

- おはなし会
1階おはなしのコーナーにて午後3時から
- 乳幼児向けおはなし会
2階視聴覚室にて午前11時から
- ブックスタート
2階視聴覚室にて午前11時から

関町図書館だより 第053号

発行者：練馬区立関町図書館
(指定管理者：株式会社図書館流通センター)
発行日：令和8年2月1日

練馬区立図書館HPIはこちら
<https://www.lib.nerima.tokyo.jp/>



vol.053

関町図書館

★ だより ★

★第053号★

「ご存じですか? こどもコーナー」



ご存じですか？ こどもコーナー

「こどもコーナー」では、乳幼児から小学生くらいの子どもたちが、読みたい本を探したり、ゆっくりと本を読むことが出来る工夫をたくさんしてあります。今回は、「こどもコーナー」を紹介します。



図書館の入口を入り、エントランスを右方向に進むと、右手に「こどもコーナー」があります。



月ごとにテーマを決めて行っている展示や、子どもたちの身長に合わせた閲覧席、資料検索機、自動貸出機などがあります。

おはなしコーナーでは、3才くらいからの子どもたちを対象に、絵本の読み聞かせを行う「おはなし会」※を開催しています。

「子育て支援コーナー」では、保護者に向けた子育て関連のチラシなどを配布しています。「授乳室」について、さらに詳しく紹介します。

※「おはなし会」は、毎月第1・第3・第5水曜日の午後3時から開催します。

授乳室

乳幼児のおむつ替えベッドやミルクを飲ませる椅子がある部屋です。目隠し用のカーテンもあり、部屋を内側から施錠できますので安心してご利用ください。

▼ 使い方 ▼

- 貸出・返却カウンターにいる図書館スタッフに「授乳室を使用したい」と声をかけてください。利用状況を確認し順番にご案内します。
- 図書館スタッフが授乳室を解錠します。
授乳室に入ったら内側から施錠してご利用ください。
- 使用後は、図書館スタッフに「授乳室を使用し終わりました」と声をかけてください。この際、授乳室の鍵は開けたままで結構です。



授乳室入口。
内側から施錠できます。



椅子とおむつ替え
ベッドを用意して
います。



水道を用意して
います。手洗い
やミルクを冷ま
す際に使用し
てください。

関町図書館の本棚から

—テーマに沿って図書館の本棚から選んだ本を紹介し—

今回のテーマは「家族とともに」です

『抱え込まない子育て 発達行動学からみる親子の葛藤』



根ヶ山光一 / 著
岩波書店 / 出版
978-4-00-432037-1/ISBN

親と子どもが調和を保ちながら共に育っていくにはどうしたら良いか。親子関係の育み方を発達行動学の観点から解説しています。



『となりのヤングケアラー』



村上靖彦 / 監修
筑摩書房 / 出版
978-4-480-25157-2/ISBN

社会から孤立し、助けを求められずにいる子どもたちの声を記した一冊。ヤングケアラーの家庭や子どもたちへの色々な支援の方法も掲載しています。



『おとうさんはウルトラマン』



みやにしたつや / 著
Gakken / 出版
978-4-052-05923-0/ISBN

ウルトラマンも家に帰るとお父さん。怪獣には決して負けないウルトラマンも、我が子のかわいさには勝てません。子育てに奮闘するお父さんの様子が、子ども目線で描かれている絵本です。



皆様から頂いた
お便りを紹介します。

常に、本に助けられています。正確に言うと、図書館に。有難うございます。

心が辛く、誰にも理解してもらえないなと自分でわかっている時は、本に頼っています。

小池龍之介さんの『やっかいな人を自分のお城に入れられない方法』を何度も読みました。気がつくと、ハッと自分を深くふり返っています。他人ではなく、自分の事が問題なのです。落ちついて過去のピンチを思い出します。

私は図書館でじっと、本に気持ちをきいてもらってどんなに追いつめられても、必ず一筋の光に向かって、歩いて行きます。

P.N『関町ファン』より